

C-52 IBP 衣服調査に基づく衣服の保温力の研究 (第2報)  
信州大教育 の 関川信子 奈良女大家政 水梨サワ子

目的 第1報で標準着衣は、体温調節の観点からほい妥当と認められたので、各季節(春・夏・秋・冬)の着衣における保温力 ( $\frac{\text{代謝量}}{\text{体表面積}}$ ) について、更に検討を加えるため  $cl_0$  値を算出し、この  $cl_0$  値と IBP 調査 ( $\frac{\text{代謝量}}{\text{体表面積}}$ ) の保温力との関連を検討した。

方法 実験は1報同様、人工気候室において、各季節(春・夏・秋・冬)の4回、 $26 \pm 1$ ,  $21 \pm 1$ ,  $16 \pm 1$  °C の環境条件のもとで、成人女子2名について、椅座安静1時間の皮膚温(前額・胸部・腹部・前膊・大腿・下腿)の6点(サーミスタ温度計による)、および舌下温、体重、産熱量について測定した。

結果 着衣実験による各季節の  $cl_0$  値と、保温力 ( $\frac{\text{代謝量}}{\text{体表面積}}$ ) の相関関係をみると、 $r = 0.95$  で相関は高度に意義のあることが認められた。

従って ( $\frac{\text{代謝量}}{\text{体表面積}}$ ) の測定値から、 $cl_0$  値の推定は可能であり、つぎのような関係式が成り立つ。

$$\begin{aligned} \text{即ち} \quad X &= 6.2y + C \\ X &\text{-----} cl_0 \text{ 値} \\ 6.2 &\text{-----} \frac{1}{0.16} \\ y &\text{-----} \frac{\text{代謝量}}{\text{体表面積}} \\ C &\text{-----} 0.104 \end{aligned}$$